

「真の共生社会とは何か、あらためて問う」有識者特別寄稿①

全国手をつなぐ育成会連合会会長、障害者政策委員会委員 久保 厚子

共に生きる社会について

私たち育成会連合会は、知的に障害のある本人と家族・関係者で構成する団体であり、7月26日に起きた「津久井やまゆり園殺傷事件」は、大きな衝撃と悲しみが走るとともに、障害者差別に対する言いようのない虚しさが充満しました。

この事件が起こるまでは、障害者差別解消法が施行され、障害者への差別が無くなる方向へ加速していくものと思っていました。障害があっても一人の人としてその人格と人権が尊重される社会を望み、その実現に長年活動してきた当会としては、今までの活動は何だったのかと虚しさを感じさせられる出来事でした。

この事件直後から、障害のある本人や家族からは「外に出るのが怖い」「お母さん僕殺されるの？」と息子が聞いてきたがどう答えれば安心させられるのか教えてください」「毎日通っている事業所の職員を信じていいのですか？」「私たち親は少し遠慮しながら毎日くらしています。それなのにこんな事件が起きて、これからどうして暮らして行けばよいのですか。」など300通を超える不安や恐怖の声がファックスや電話などで寄せられました。

そこで、障害のある人や家族の不安を少しでも軽減させ落ち着いて暮らしてもらえるようにと、以下の様な障害のあるご本人へ向けたメッセージを発信しました。

津久井やまゆり園の事件について
(障害のあるみなさんへ)

7月26日に、神奈川県にある「津久井やまゆり園」という施設で、
障害のある人たちが 19人が 殺される事件が 起きました。
容疑者として逮捕されたのは、施設で働いていた男性でした。
亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、
そのご家族には お悔やみ申しあげます。
また、けがをされた方々が 一日でも早く 回復されることを
願っています。

容疑者は、自分で助けを呼べない人々を 次々におそい、
傷つけ、命をうばいました。
とても残酷で、決して 許せません。
亡くなった人たちのことを思うと、とても悲しく、悔しい思いです。

容疑者は「障害者はいなくなればいい」と 話していたそうです。
みなさんの中には、そのことで 不安を感じる人も
たくさんいると思います。
そんなときは、身近な人に 不安な気持ちを 話しましょう。
みなさんの家族や友達、仕事の仲間、支援者は、
きっと 話を聞いてくれます。
そして、いつもと同じように 毎日を過ごしましょう。

不安だからといって、生活のしかたを 変える必要は ありません。

障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが 大切な存在です。

障害があるからといって

誰かに傷つけられたりすることは、あってはなりません。

もし誰かが「障害者はいなくなればいい」なんて言っても、

私たち家族は 全力でみなさんのことを 守ります。

ですから、安心して、堂々と 生きてください。

平成28年 7 月27日

全国手をつなぐ育成会連合会
会長 久保 厚子

このメッセージの後からは、「ありがとうございました。救われました」「親の気持ちを代弁してくれてありがたい」「今まで色々なことがありました。これからも色々なことがあると思います。でも、障害のある我が子とともに前向いて歩いていきます」「何度も読み返し涙が溢れてくる。ありがとう」「長年かけて障害者の尊厳を守る活動をされてきたから発することのできる、力強さと優しさを感じる。頑張ってください」などの声が寄せられました。

中・軽度の障害のある人たちは数か月間この事件のこと自体を語ることも出来ずにいました。10月頃からようやく障害のある本人たちは自分たちで語り始め、障害があっても様々な思いを乗り越え、前を向いて進もうとしています。

どうか、こうした本人たちを支えてあげていただきたいと思います。

また、こうした事件を何故防げなかったのか、施設の職員教育や警察の警邏体制、犯人の地域での見守り支援などを検討する必要があります。

一方で、施設はどこも地域に開かれた存在であろうと努力してきていますから、今回の様にターゲットを絞って確信を持って押し入られると、どこの施設も防ぎ切ることは難しいかも知れません。親としては、とても不安を覚える点ではありますが、反面、我が子には施設のあるその地域の住民として、地域とつながった暮らしをして欲しいと願っています。そのため、高い塀を巡らせたり門扉に鍵をかけたりはしてほしくないと思っています。

この事件では、ネット上で多くのヘイトスピーチが交わされ、私たちの事務所にも同様の意見が幾つも届きました。このことから、多くの国民の心の奥底には「知的に障害のある人は自分たちとは別の世界の人、何をするか分からない人、役に立たない人」といった感情が根強くあることを再確認させられました。

これらのことから、国民に対する多様性を認め共に生きる共生社会に向けた「心のバリアフリー」と「合理的配慮」のある社会が共に支え合える、誰にとっても生きやすい社会であることを、強力に進める必要があると感じています。その一つに、学校での教科を通しての教育は将来に渡る大きな成果を期待できると思い、是非とも早期に進めていただきたいと願っています。

また、国の共生社会への推進計画の下、各自治体や企業・各業界における「心のバリアフリー」と「合理的配慮」を進める事業や研修を数多く行うことと、各種行事を利用したPRや意識付けが必要だと感じています。その時には、障害のある人や高齢の方への理解をも進めていただきたいと思います。

差別や偏見、虐待は、障害者や高齢者の特性や状況を知らないことから始まります。知ることによって理解し、多様性を認める一歩が始まると思います。

私たち育成会では、知的障害と自閉症、発達障害の人の疑似体験を各地で行ない、学校、警察、社会福祉協議会、消防署などで障害者への理解を進める活動を実施しています。是非、疑似体験や知的障害者本人が語る研修会なども進めていただきたいと願っています。

障害があっても無くても、人は皆大切な存在であり、命の重さや尊さは同じであることと、誰もが向かうであろう支援を必要とする人の暮らしが安心・安全である社会の実現は、社会全体がお互いに支え合う共生の社会が構築されることであることを、強く呼びかけ推進していけるように図っていただきたいと思います。